荒川中だより
青 い 雲
教育目標　「めあてをもち　自分で考え　ねばり強くやり抜こう」

令和７年度　第９号
令和７年12月11日発行
村上市立荒川中学校

恩送りで広がるやさしさ

校長　　西村　諭

二十四節気の「大雪」を過ぎ、いよいよ本格的な寒さがやってきました。県内ではインフルエンザの感染拡大が続いています。皆様におかれましても、健康管理にはくれぐれもご留意いただきたいと思います。学校でも手洗いやうがいなど、基本的な感染対策を徹底してまいります。

２学期は学校行事、授業参観、ＰＴＡ行事等で、多くの保護者・地域の皆様からご来校いただきました。皆様からの温かい拍手や励ましの言葉に、生徒は達成感と満足感を味わうことができました。誠にありがとうございました。

さて、これまで活動の中心にいた３年生が受験期を迎え、３年生が担ってきた役割を下級生が引き継ぐ節目の時期を迎えています。12月５日には令和８年度生徒会役員選挙が行われ、次年度の３役も決まりました。

今月の全校朝会では、引継ぎ行事でのキーワードとして「感謝・伝統・目標・継承・決意・出発」を示し、この言葉の具体を考え、行動に移してほしいと伝えました。また、その中で「感謝」という言葉に注目をして、「恩送り」という話をしました。

中国南部の広東省・福建省・江西省には、客家という民族が「客家土楼」という家に住んでいました。円形の集合住宅で、三、四階建ての建物の中に多くの家族が暮らしています。まるで、中庭の囲む高層の筒型アパートのような構造です。

この小さな地域からは、数多くの優れた指導者が生まれています。その理由をテレビ番組のレポーターが、村の長老に尋ねたところ、長老はこう答えました。

「右隣の人に親切にしてもらったら、その人にお返しをしてはいけない。その代わりに、左隣の人に親切にしなさい。」

一見、不思議な教えですが、こうすることで、親切は二人の間で終わらず、次々と広がっていきます。円形の建物では、この連鎖が続けば、やがて回り回って自分にも親切が返ってくるのです。

このように、受けた恩や親切を直接返すのではなく、別の第三者へ送る行為を「恩送り」といいます。客家の人たちは、この教えを大切にし、誇りにしています。

私たちの学校でも、先輩、後輩、先生方から受けた親切を、次の人へ送ることで、やさしさが広がり、笑顔あふれる学校になるのではないでしょうか。

今学期も皆様からは、学校教育に対してご理解とご協力をいただき、感謝しております。

３学期は一年間のまとめであるとともに、新年度への飛躍の準備の学期となります。来年も、教職員一同、全力で教育活動に取り組んでまいります。

～ 一年間ありがとうございました。皆様、よい年をお迎えください。～